

ご来賓のご挨拶



林 伸一郎
在モンゴル日本国大使館 参事官

皆様、おはようございます。まず最初に二つの「おめでとう」を申し上げます。一つ目は、モンゴル日本語教師会設立20周年おめでとうございます。そして、その20周年の記念行事として第11回日本語教育シンポジウムが開催されたことにお喜び申し上げます。

実は私は少しモンゴル語を勉強したことがあります。その時のことで今でも忘れられないことが一つあります。大学へ行き最初のモンゴル語の授業の時、モンゴルから来てくださっていた先生が馬の絵を見せてくださいました。1枚目には1頭の馬が描かれていました。先生が私達に「これを日本語で何と言いますか」と聞くので、私達は「馬です」と答えました。2枚目には10頭程の馬が、3枚目には母子馬が描かれており、先生は同様の質問をしますが、私達はやはり「馬です」と答えました。すると先生は「日本語の“馬”というものがそういう意味なのであれば、モンゴル語には“馬”という言葉はありません」とおっしゃいました。先生の言葉の意味は、私達が見せられた馬がモンゴル語だとそれぞれ морь, адуу, гүү, унага になるということですが、モンゴルといえば馬の国だと思っていた私は、“馬”という言葉がないと言われ、非常にショックを受けるとともに大きな感動を覚えました。

つまり言葉というのは、その国でその言葉を作り使っている人々の生活・仕事・生業に密着しているということです。私はいまだに馬の毛の色の違いや家畜の成長段階別の名称が覚えられません。そして私はモンゴルに来て、逆のことが言えることも分かりました。例えばモンゴルの人々に様々な魚を見せて「これはモンゴル語で何ですか」と問いたら、常に зарас と答えるでしょう。水産物や農作物とともに生きてきた日本語と家畜とともに生きてきたモンゴル語にはそれぞれ独特の豊富さがあります。それぞれの文化を背景にして呼び名を付ける、それが言葉なのだと思います。皆様は日本語を教えていらっしゃると思いますが、それは単なる言語ではなく、多くの日本人が積み重ねてきた歴史です。言葉を教えるということは、その国の人と人とのつながりや歴史を紐解いて相手に紹介していくことだということが最近分かってきました。

このような取り組みにモンゴルにおいて20年以上関わってくださった皆様に深い敬意を表します。また、日本語教育シンポジウムを11年にわたり開催し続けたことに心より御礼を申し上げます。

最後になりましたが、このシンポジウムのためにはるばる日本からお越しくくださったアクラス日本語教育研究所代表理事の嶋田和子先生、インドネシアからお越しくくださった国際交流基金ジャカルタ日本文化センターの片桐準二先生、そしてこのシンポジウムの開催に携わってくださったすべての関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。ありがとうございました。